

○計画期間：平成29年4月～平成34年3月（5年0月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成29年度終了時点（平成30年3月31日時点）の中心市街地の概況

熊本地震から約2年が経過し、中心市街地の歩行者通行量は震災前の水準となり、地価も上昇傾向となる等、市民とともに前を向き復興に向けた取り組みの効果が発現してきたところである。

熊本城地区では、崩落の危機に必死に耐えた天守閣が見守る二の丸広場に、本年3月まで設置したステージに駆けつけたボランティア溢れる多くのアーティストから、市民は励まされ、明日への活力へとつなげていったことはもとより、改めて中心市街地を訪れる機会ともなった。本年3月には、熊本城の効率的・計画的な復旧と戦略的な公開・活用を着実に進めていくための熊本城復旧基本計画を策定したところであり、熊本城全体の復旧には長期間を要することとなるが、世界的なスポーツ大会の開催が予定され、国内外から多くの観光客が見込まれる来年度に大天守の外観が観覧可能となるよう、復旧工事を進めることとした。

通町筋地区においては、震災時にはアーケード内で新築工事中であった商業施設COCOSA（ココサ）（延床面積18,000㎡、ダイエー下通店跡地に新築）が昨年4月に開業し、九州・沖縄地方で最大の地価上昇率となった。今後も被災した建物の復旧・営業再開が進められ、中心市街地全体の賑わいの創出、ひいては地価の上昇を牽引していくものと考えられる。

桜町地区では、来年夏頃の竣工を目指し、本市が取得する公益施設（熊本城ホール）の整備やバスターミナルのリニューアルをはじめ、商業、ホテル、住宅などが導入される民間施行の市街地再開事業の新築工事が進められており、復興を力強く牽引している。再開事業で整備される住宅については、昨年9月の販売開始日に全159戸が即日完売するなど、まちなか居住の推進に明るい兆しが見えている。また、熊本城公園・シンボルプロムナード一帯を会場の一つとして、中心市街地の賑わいに多大に貢献する「全国都市緑化フェア」の2021年度開催に取り組んでいくこととした。

新町・古町地区においては、地震後多くの「町屋」が取り壊されることとなった一方、民間事業者によって空きビルをリノベーションし、ゲストハウスとして再生させる計画が進められるなど、新たな動きが見え始めている。

熊本駅周辺地区では、本年3月にJR熊本駅周辺の在来線の高架化が完了したことにより、駅高架下に商業施設「肥後よかモン市場」が開業し、駅構内の店舗数が大幅に増加した。来年春に予定されている新駅舎の完成をはじめ、2020年度中の白川口（東口）駅前広場の完成、2021年春の熊本駅ビルの開業等により、陸の玄関口が大きく生まれ変わり、更なる賑わいの創出が期待されている。

しかしながら、復興需要は将来的には落ち込んでいくといった懸念もあり、引き続き認定基本計画に掲載された事業を着実に実行し、中心市街地の活性化に取り組んでいく。

2. 平成 29 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

熊本地震から 2 年を経過した熊本市中心市街地ではビル・店舗・住宅の解体・復旧工事が進み、復興に向け順調に歩みを進めていることに加え、基本計画に沿った行政並びに民間の様々な取り組みの実施により、熊本城公園（熊本城、城彩苑等）への入込数、及び桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者数と中心市街地内の居住人口は計画 1 年目にして目標値を上回っていることから基本計画は概ね順調に推移していると評価している。

その一方、桜町地区再開発や復旧工事従事者の増加による慢性的な駐車場不足と建設コストの上昇が重なり、解体した跡地を一時的にコインパーキングとして利用するケースも目立ち、中心市街地の魅力と賑わいを維持・向上させるため、建て替えを契機に建物の集合化を図るなどの対策が必要である。

また、在来線の高架化完了に伴い 3 月に JR 熊本駅に開業した「肥後よかモン市場」には多くの市民・観光客で賑わっている。2021 年の熊本駅ビル開業後は広域から更なる集客が見込まれることから、いかにして中心商店街まで回遊させるかなど、持続的に発展する中心市街地を目指して取り組む必要がある。

そのため、中心市街地活性化協議会において 2015 年から検討に着手し、今年 1 月に熊本商工会議所と熊本経済同友会で「熊本市中心市街地ランドデザイン 2050 世界に拓く城下町都市くまもと」を公表した。これは、今後 30 年かけて産学官が一体となって実現していくまちづくりの長期ビジョンであり、今後は当面 10 年間程度に取り組むべき課題と対応施策・プロジェクトを煮詰めていき、その実現を目指していく。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
にぎわいあふれる 城下町	熊本城公園(熊本城、城彩苑等)への入込数、及び桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者数	1,921,762 人/年 (平成 28 年度) (2016 年度)	2,650,000 人/年 (平成 33 年度) (2021 年度)	3,858,993 人/年 (平成 29 年度) (2017 年度)	—	①
安心してずっと 暮らしたいまち	中心市街地内の 居住人口	36,604 人 (平成 28 年 10 月 1 日) (2016 年 10 月 1 日)	37,000 人 (平成 33 年 10 月 1 日) (2021 年 10 月 1 日)	37,047 人 (平成 29 年 10 月 1 日) (2017 年 10 月 1 日)	—	①
誰もが訪れて みたくなるまち	熊本市内の宿 泊客数	2,637,637 人/年 (平成 27 年) (2015 年)	3,000,000 人/年 (平成 33 年 (2021 年))	2,750,000 人/年 (速報値) (平成 29 年) (2017 年)	—	①

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「熊本城公園(熊本城、城彩苑等)への入込数、及び桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者数」については、復旧の過程を見学する観光客や大型クルーズ船を利用した海外からの観光客の増加等により、熊本城公園への入込数が地震直後に比べて大幅に増加した。

「中心市街地内の居住人口」については、企業立地の促進や産業の振興に寄与する各事業による雇用の拡大等により目標値を上回った。

「熊本市内の宿泊客数」については、計画 1 年目において、地震前の基準値を 10 万人ほど上回った。来年度に熊本城大天守の外観復旧及び桜町地区再開発事業、2020 年度にシンボルプロムナード等の整備の完了により、更なる交流人口の増加を図ることで、目標達成が可能であると見込まれる。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップは実施していない

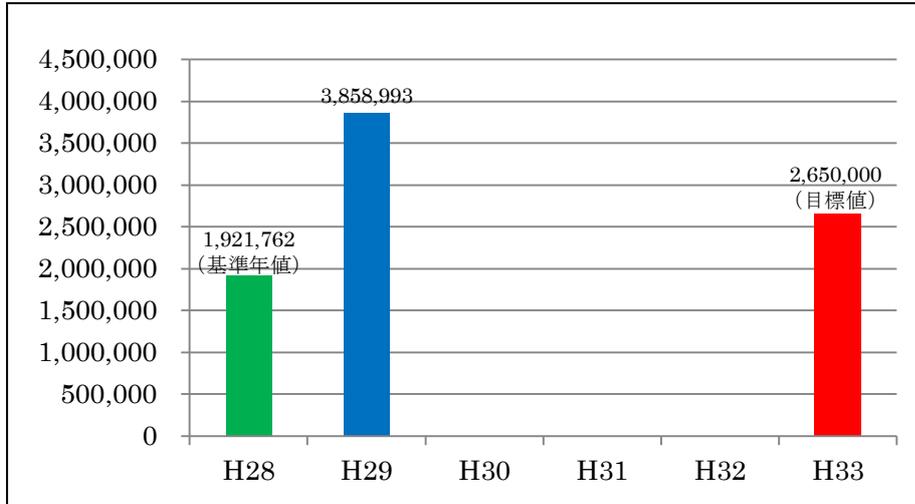
【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(中心市街地地域)	平成 28 年度 (2016 年度) (計画期間開始前年度)	平成 29 年度 (2017 年度) (フォローアップ年度)
人口	36,792 人	37,013 人
人口増減数	▲241 人	221 人
社会増減数	▲181 人	239 人
転入者数	4,544 人	4,133 人

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「熊本城公園（熊本城、城彩苑等）への入込数、及び桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者数」※目標設定の考え方基本計画 P73～P75 参照

●調査結果の推移



年	(単位) 人/年
H28	1,921,762 (基準年値)
H29	3,858,993
H30	
H31	
H32	
H33	2,650,000 (目標値)

※調査方法：熊本城公園（熊本城、城彩苑等）来場者、桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者を計測

※調査月：毎年4月～翌3月

※調査主体：熊本市

※調査対象：熊本城公園（熊本城、城彩苑等）来場者、桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 熊本城復旧整備事業（熊本市）

事業完了時期	【実施中】		
事業概要	復興のシンボルである「天守閣」をはじめ、石垣・建造物や便益施設等を含む熊本城全体の復旧を行う。		
事業効果及び進捗状況	<p>本年3月、熊本城復旧基本計画を策定し、来年秋頃の大天守の外観復旧、2021年春頃の天守閣全体の復旧完了を目指すとともに、仮設見学通路など観覧環境を整備していくこととしている。</p> <p>今後は、当計画に基づき計画的に復旧を進めていくとともに、復旧過程を公開することで、国内外へ向けた新たな観光資源としての活用を行い、更なる入込数の拡大を図ることとしている。</p>		
	【熊本城公園への入込数】		
		平成28年度（5～3月） （2016年度）（5～3月）	平成29年度 （2017年度）
	熊本城	1,328,619人	2,104,195人
	城彩苑	836,075人	1,213,204人

②. 桜町地区再開発事業（熊本桜町再開発株式会社）

事業完了時期	平成 31 年度（2019 年度）【実施中】
事業概要	民間事業者の再開発事業により、バスターミナル、商業施設、熊本城ホール等の整備を行う。
事業効果及び進捗状況	<p>人、モノ、情報の交流拠点となるランドマーク施設の整備を行うとともに、広域バスターミナル、商業施設等の機能更新や交流施設の整備を行うことで、桜町・花畑周辺地区の賑わいの創出を図る。</p> <p>【スケジュール（見込）】</p> <p>平成 29 年度（2017 年度） 建設工事・工事監理</p> <p>平成 30 年度（2018 年度） ”</p> <p>平成 31 年度（2019 年度） ” 、施設完成</p>

③. シンボルプロムナード等整備事業（熊本市）

事業完了時期	平成 32 年度（2020 年度）【実施中】						
事業概要	熊本城と中心商店街との回遊性を向上させるため、デザインコンセプトを「熊本城と庭つづき『まちの大広間』」としてシンボルプロムナードや（仮称）花畑広場などのオープンスペースの整備を行う。						
事業効果及び進捗状況	<p>暫定供用している（仮称）花畑広場において飲食、物販やスポーツイベント等の多様な利用が行われ、休日における稼働率は 7 割を超え、約 54 万人が来場するなど、桜町・花畑周辺地区の賑わいが創出された。</p> <p>また、イベント開催時には、中心商店街全体の歩行者通行量が大幅に増加するなど、来場者を中心商店街へと回遊させることができた。</p> <p>【（仮称）花畑広場来場者数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成 27 年度（6-3 月） （2015 年度）（6-3 月）</th> <th>平成 28 年度 （2016 年度）</th> <th>平成 29 年度 （2017 年度）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>561,362 人</td> <td>647,833 人</td> <td>541,594 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【スケジュール（見込）】</p> <p>平成 29 年度（2017 年度） 基本設計</p> <p>平成 30 年度（2018 年度） 基本設計・実施設計</p> <p>平成 31 年度（2019 年度） 実施設計・施設工事</p> <p>平成 32 年度（2020 年度） 施設工事・施設完成</p>	平成 27 年度（6-3 月） （2015 年度）（6-3 月）	平成 28 年度 （2016 年度）	平成 29 年度 （2017 年度）	561,362 人	647,833 人	541,594 人
平成 27 年度（6-3 月） （2015 年度）（6-3 月）	平成 28 年度 （2016 年度）	平成 29 年度 （2017 年度）					
561,362 人	647,833 人	541,594 人					

④. 熊本城周遊バス運行事業（熊本市）

事業完了時期	【実施中】		
事業概要	熊本駅を発着とし、熊本城及びその周辺をつなぐ周遊バスを運行する。		
事業効果及び進捗状況	熊本駅、熊本城及びその周辺地区をつなぐことにより、中心市街地内の回遊性向上につながるとともに、熊本城地区への利便性も向上し、熊本城公園への入込数の拡大に寄与するものである。		
	【バス乗車人数】		
	平成 27 年度 (2015 年度)	平成 28 年度 (2016 年度)	平成 29 年度 (2017 年度)
	106,272 人	68,958 人	85,531 人

⑤. 桜町、花畑周辺地区賑わい創出事業（熊本市、民間事業者）

事業完了時期	【実施中】		
事業概要	桜町・花畑周辺地区の事業者が一体となり、（仮称）花畑広場において賑わいイベントを開催する。		
事業効果及び進捗状況	（仮称）花畑広場において賑わいイベントを開催することにより、熊本城と中心商店街との回遊性を高めるとともに、桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者数の増加に寄与するものである。		
	【集客数】		
	平成 27 年度 (2015 年度)	平成 28 年度 (2016 年度)	平成 29 年度 (2017 年度)
	54,200 人	45,000 人	41,500 人

●目標達成の見通し及び今後の対策

熊本城の復旧過程を新たな観光資源として活用したことや、二の丸広場での復興イベント等の開催等の効果により、熊本城公園（熊本城、城彩苑等）への入込数は、地震直後に比べて増加している。

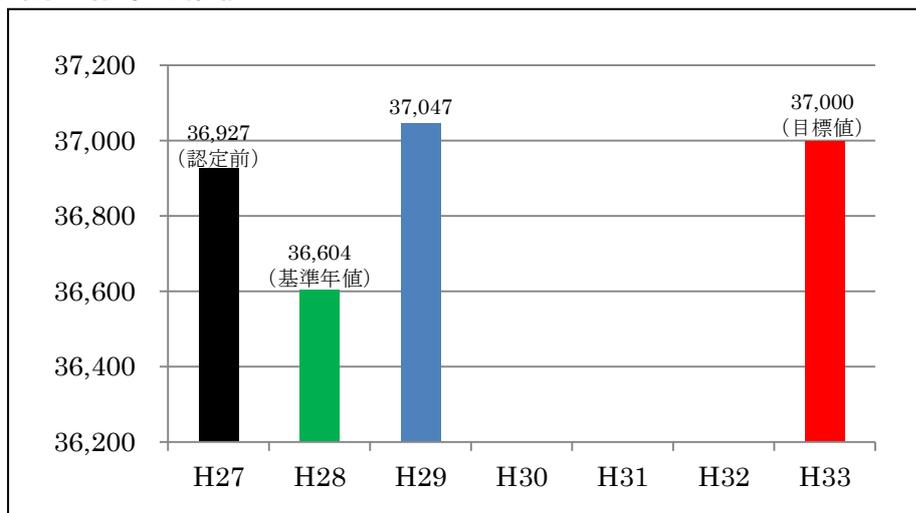
暫定供用している（仮称）花畑広場においては、飲食、物販やスポーツイベント等の多様な利用が行われ、休日における稼働率は7割を超え、約54万人が来場するなど、桜町・花畑周辺地区の賑わいが創出された。

来年度には、桜町地区再開発事業の開業が予定されており、2020年度のシンボルプロムナードの本格供用によるオープンスペースの拡大とともに、新たなイベントの開催などが期待されることから、目標達成は可能であると見込まれる。

本市において世界的なスポーツ大会が開催される来年度には、大天守外観の復旧が完了し観覧が可能となるよう、本年度から本格着手した復旧工事を着実に進めていくことはもとより、重要文化財建造物や復元建造物等についても、熊本城復旧基本計画に基づき復旧を進めていく。

「中心市街地内の居住人口」 ※目標設定の考え方基本計画 P76～P78 参照

●調査結果の推移



年	(単位) 人
H28	36,604 (基準年値)
H29	37,047
H30	
H31	
H32	
H33	37,000 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳からの集計

※調査月：10月1日現在

※調査主体：熊本市

※調査対象：中心市街地内7校区の住民基本台帳登録者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 桜町地区再開発事業（熊本桜町再開発株式会社）＜再掲＞

事業完了時期	平成31年度（2019年度）【実施中】
事業概要	民間事業者の再開発事業により、バスターミナル、商業施設、熊本城ホール等の整備を行う。
事業効果及び進捗状況	<p>人、モノ、情報の交流拠点となるランドマーク施設の整備を行うとともに、全159戸のマンションの整備を行うことで、更なる居住人口の増加を図る。</p> <p>【スケジュール（見込）】</p> <p>平成29年度（2017年度） 建設工事・工事監理</p> <p>平成30年度（2018年度） ”</p> <p>平成31年度（2019年度） ” 、施設完成</p>

②. 企業立地（誘致）促進事業（事業主体：熊本市）

事業完了時期	【実施中】		
事業概要	熊本市企業立地促進条例に基づき、立地企業に対し助成を行う。		
事業効果及び進捗状況	<p>昨年度の当事業を活用した企業の立地件数は16件であり、製造業、情報関連産業やコールセンター等、さまざまな企業が進出している。また、立地企業の新規雇用予定者数は735人となり、中心市街地の居住人口の増加に寄与している。</p> <p>【当事業を活用した企業の立地件数】</p>		
	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)
	16件	11件	16件

③. 街なか子育てひろば事業（熊本市）

事業完了時期	【実施中】		
事業概要	中心商店街に隣接する熊本市現代美術館内に「街なか子育てひろば」を開設する。		
事業効果及び進捗状況	<p>街なかに、日祝日も気軽に立ち寄れる子育て支援施設を設置することにより、子育てしやすい環境を提供し、ファミリー層のまちなか居住を促進する。</p> <p>【利用実績】</p>		
	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)
	21,896人	26,880人	20,661人

④. 地場企業PR事業（熊本市）

事業完了時期	【実施中】		
事業概要	民間就職情報サイトにおいて、市内中小企業の魅力的な情報を発信する特設ページを開設する。		
事業効果及び進捗状況	<p>市内中小企業の認知度を高めるとともに、企業とのマッチング機会を創出することで、若年層等の地元就職率を向上させ、まちなか居住を促す。</p> <p>アクセス数については、前年度と比較して、月平均数が大幅に増加しており、本市の特設ページと市内中小企業の認知度は広がっている。</p> <p>【本市の特設ページへのアクセス数】</p>		
		平成28年度 (2016年度) (11月～3月)	平成29年度 (2017年度)
	年間アクセス数	37,612件	221,390件
	月平均アクセス数	7,522件	18,449件

●目標達成の見通し及び今後の対策

熊本地震後に一旦は中心市街地の居住人口が減少したものの、企業立地の促進や産業の振興に寄与する各事業による雇用の拡大等により目標値を上回った。

昨年9月、桜町地区再開発事業で整備される住宅が販売開始日に即日完売するなど、立地や都市機能が集積した中心市街地における居住促進に関して明るい兆しが見えている。

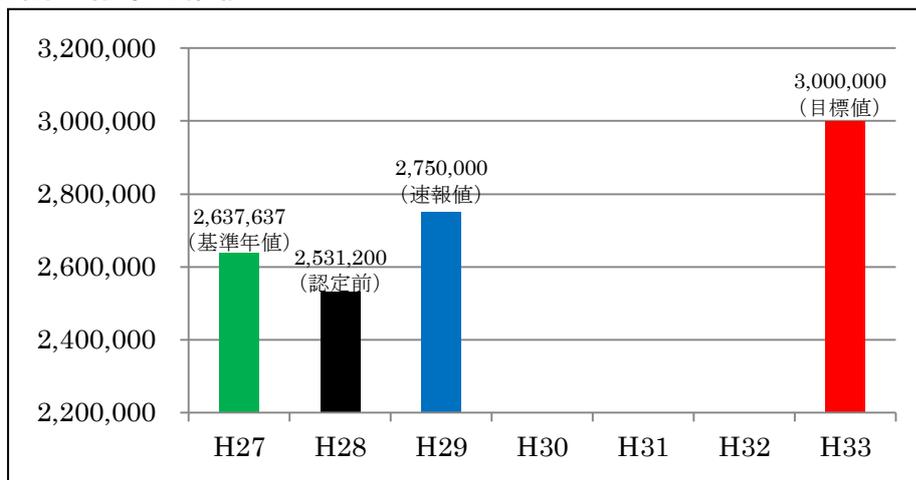
また、本市の優れたビジネス環境や都市機能の集積などを活かして、積極的に企業立地を促進し、産業の振興による雇いを拡大していくことや、子育て支援施設の整備による子育て環境の向上を図ることで、目標達成は可能であると見込まれる。

今後は、立地企業に対する助成に加え、中心市街地におけるオフィス床不足の解消に向けたオフィスビル建設オーナーへの支援、及び進出企業の入居紹介を実施していくとともに、市内中小企業のPR、並びに本市への移住・定住について、大手ポータルサイトと連携を予定しており、雇用の拡大を図ることなどにより、中心市街地への居住を促進していく。

あわせて、桜町・花畑周辺地区や熊本駅周辺地区の再整備については、防災面からの機能強化を図り、災害に強い安全・安心なまちづくりを進めていく。

「熊本市内の宿泊客数」 ※目標設定の考え方基本計画 P79～P81 参照

●調査結果の推移



年	(単位) 人/年
H27	2,637,637 (基準年値)
H28	2,531,200
H29	2,750,000 (速報値)
H30	
H31	
H32	
H33	3,000,000 (目標値)

※調査方法：熊本市内の宿泊客数調査からの集計

※調査月：毎年1月～12月

※調査主体：熊本市

※調査対象：市内のホテル、旅館、公共宿泊施設の年間宿泊客数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- ①. 桜町地区再開発事業（熊本桜町再開発株式会社）＜再掲＞
- ②. 熊本城ホール整備事業（熊本市）

事業完了時期	平成31年度（2019年度）【実施中】
事業概要	民間事業者の再開発事業により、バスターミナル、商業施設、熊本城ホール等の整備を行う。
事業効果及び進捗状況	<p>人、モノ、情報の交流拠点となるランドマーク施設の整備を行うとともに、約200室のホテルやにぎわい交流施設の整備を行うことで、更なる交流人口の増加を図る。</p> <p>【スケジュール（見込）】</p> <p>平成29年度（2017年度） 建設工事・工事監理</p> <p>平成30年度（2018年度） ”</p> <p>平成31年度（2019年度） ” 、施設完成</p>

③. シンボルプロムナード等整備事業（熊本市）＜再掲＞

事業完了時期	平成 32 年度（2020 年度）【実施中】		
事業概要	熊本城と中心商店街との回遊性を向上させるため、デザインコンセプトを「熊本城と庭つづき『まちの大広間』」としてシンボルプロムナードや（仮称）花畑広場などのオープンスペースの整備を行う。		
事業効果及び進捗状況	<p>暫定供用している（仮称）花畑広場において飲食、物販やスポーツイベント等の多様な利用が行われ、休日における稼働率は7割を超え、約54万人が来場するなど、桜町・花畑周辺地区の賑わいが創出された。</p> <p>また、イベント開催時には、中心商店街全体の歩行者通行量が大幅に増加するなど、来場者を中心商店街へと回遊させることができた。</p> <p>【（仮称）花畑広場来場者数】</p>		
	平成 27 年度（6-3 月） （2015 年度）（6-3 月）	平成 28 年度 （2016 年度）	平成 29 年度 （2017 年度）
	561,362 人	647,833 人	541,594 人
	<p>【スケジュール（見込）】</p> <p>平成 29 年度（2017 年度） 基本設計</p> <p>平成 30 年度（2018 年度） 基本設計・実施設計</p> <p>平成 31 年度（2019 年度） 実施設計・施設工事</p> <p>平成 32 年度（2020 年度） 施設工事・施設完成</p>		

④. 熊本城マラソン事業（熊本市、民間事業者）

事業完了時期	【実施中】			
事業概要	約 14,000 人のランナーによるマラソン大会を開催する。			
事業効果及び進捗状況	<p>昨年度は、県外からのエントリー率が初めて全体の4割を超えるなど、県外への認知度が上昇している。</p> <p>今後も引き続き、県外への広報展開を工夫し、全国における熊本城マラソンの認知度を向上させ、更なる交流人口の増加を図る。</p> <p>【エントリー者数】</p>			
		平成 27 年度 （2015 年度）	平成 28 年度 （2016 年度）	平成 29 年度 （2017 年度）
	エントリー者数	24,610 人	25,428 人	26,722 人
	うち県外	8,816 人 (36%)	9,771 人 (38%)	10,742 人 (40%)

⑤. 国内観光客誘致事業（熊本市）

事業完了時期	【実施中】
事業概要	復興に向けた観光振興として、首都圏や新幹線沿線都市を中心に「正確な情報」「元気な熊本」をPRすることで、戦略的かつ効果的な国内観光客の誘客活動を展開する。
事業効果及び進捗状況	情報発信する対象エリアを選択・集中させることで、効果的に交流人口の拡大や観光産業の活性化を図った。今後も、宿泊客数の増加に向けて取り組んでいく。

⑥. 国際観光客誘致事業（熊本市）

事業完了時期	【実施中】
事業概要	東アジア・欧米豪州に対して観光プロモーションを実施することで、戦略的かつ効果的な外国人観光客の誘客活動を展開する。
事業効果及び進捗状況	上記エリアへの観光プロモーションを行い熊本の魅力を伝えるとともに、旅行会社へのセールスや旅行博において、旅行商品の販売を行った。今後も、宿泊客数の増加に向けて取り組んでいく。

⑦. MICE推進事業（熊本市）

事業完了時期	【実施中】			
事業概要	学会、大会などのコンベンション、コンサートや展示会等のイベント、企業研修やインセンティブトラベル等の誘致に取り組むとともに、受入環境の充実を図る。			
事業効果及び進捗状況	コンベンションやイベント等の誘致活動により、大規模学会等の開催が複数決定された。			
	また、昨年度のコンベンション開催状況は、積極的な誘致活動により、地震前の水準を取り戻しつつある。特に、国際大会や全国大会は、地震前の件数を上回っており、取り組みの効果が出てきている。			
	【コンベンション開催状況】			
		平成 27 年度 (2015 年度)	平成 28 年度 (2016 年度)	平成 29 年度 (2017 年度)
	件数	313 件	243 件	322 件
	参加人数	116,442 人	89,906 人	105,560 人

●目標達成の見通し及び今後の対策

地震の影響により落ち込みを見せた「熊本市内の宿泊客数」については、震災からの復旧・復興のための来熊者の宿泊に加え、熊本城の復旧過程の公開や熊本城内の二の丸広場での復興イベント等の開催のほか、国内外観光客の誘致事業等の効果により、熊本地震による減少から回復し、地震前の基準値を上回った。

来年度に熊本城大天守の外観復旧及び桜町地区再開発事業、2020年度にシンボルプロムナード等の整備を完了していくことなど、主要事業の取り組みの推進を図るとともに、国内外で積極的に観光プロモーション等に取り組むことにより目標達成が可能であると見込まれる。

今後は、熊本城の復旧工事を計画的・効率的に進めることはもとより、復旧過程を公開していくための仮設見学通路の整備など観覧環境の整備・拡充をはじめ、瓦や石材を活用した新たな参加型の取り組みを行っていく。また、熊本出身者が主人公となる大河ドラマの放映、ラグビーワールドカップ及び女子ハンドボール世界選手権大会といった世界的なスポーツイベントの開催機会を捉えた国内外へ向けたプロモーションや受入環境の整備などを行っていくことにより、一過性に終わらない、更なる宿泊客増加に向けた取り組みを進めていく。